

サムラング有機モデル農場

サムラングと隣のラブラ村の住民で、SOFA (Samlang Organic Farmers Association) という組織を結成しました。このモデル農場で、有機栽培のやり方、肥料や田んぼ、フィッシュポンドの作り方、豚や魚の育て方など、循環型の持続可能な農場の作り方を学び、自分の耕作地に応用するのです。希望者は 35 ペソ (約 70 円) 払って入会し、必要な機材を借りることができます。講習日は月 2 回土曜日です。講師は CMB スタッフのリコ。もちろん、「充分学んだ」と感じれば、脱会して構いません。今度は SOFA に入会していない隣人に、技術を伝えることを期待されます。

訪問した日は、田植えの仕方、バナナの木の本分けの仕方、フィッシュポンドでの網の使い方を学んでいました。近くの川から水を取ることができるサムラングでは、フィッシュポンドが人気です。子どもたちもやってきて、遊びながらおとなを手伝います。残念ながら町で販売するまでにはまだまだですが、ティラピア、ドジョウ、タニシは大事なタンパク源となります。

問題はやはり資金。例えば「人間の尿を作物の根元に撒けばアリの害を防ぐことができる」と学んでも、その尿を貯めておくプラスチックの容器を手に入れることが困難なのです。CMB はラーニングファーム (= 学びの農場) として、近隣の農民から講習費を取って運営することを考慮中です。

おとなと子どもと一緒に学べるこの農場は、つばめが飛び交い、風が吹き渡る心地良い場所です。ぜひ一度訪れて、一緒に汗を流してください。



フィッシュポンドで泥だらけになって頑張るカンブンさん



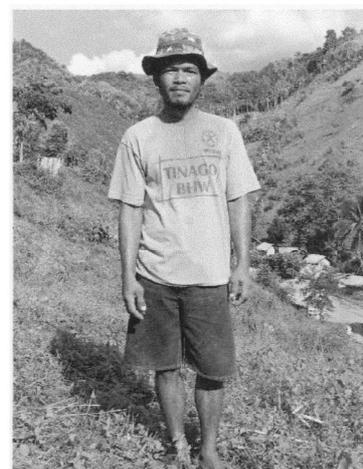
網の使い方を習う



SOFA のミーティング

ラムフゴン村&バンカル村教育事情

植林ツアーで滞在したラムフゴン村とバンカル村では、小学校卒業後、ハイスクールに進学できる子どもはごくわずか (2004 年度ラムフゴン村 4 名、バンカル村 2 名)。その子どもたちもワーキングスチューデントとして、町に近い農場での早朝と夜遅くまでの仕事をこなしながら、学業を続けているそうです。そんな状況を見かねて、ジルベルトさんと村民たちから奨学金について相談されました。もちろん植林したから、すぐ村の生活が豊かになるわけではありませんし、教育は今後の村の在り方を考える上で大切な問題です。みなさんと共に支援の仕方を考えていきたいと思えます。



ジルベルト・マラジャさん
ティナゴ高地民同盟 書記